

Technical Description

# Aircraft Maintenance

職種定義

航空機整備



ワールドスキルズインターナショナルは、その競技運営委員会の決議により、またその憲章、運営規則および競技規則に基づいて、技能五輪国際大会の本職種における下記の最低要件を承認している。

本職種定義は以下の内容で構成されている。

- 1 序文
- 2 ワールドスキルズ職業基準（WSOS）
- 3 評価戦略と仕様
- 4 採点スキーム
- 5 競技課題
- 6 職種管理と情報伝達
- 7 職種限定の安全要件
- 8 材料と機材
- 9 職種限定規則
- 10 来場者とマスコミに対する職種の広報活動
- 11 持続可能性
- 12 産業界との協議に関する情報
- 13 付録

# 1 序文

## 1.1 職種競技の名称と説明

### 1.1.1 職種競技の名称

航空機整備

### 1.1.2 関連する職務または職業の定義

航空整備士は、民間、軍および公共サービスセクター（分野）に勤務し、航空製品に関する幅広い工程を実施する。彼らには、チームや組織の信用を維持しながら、顧客と運用担当者の安全を確保するためにプロフェッショナルとして働くという重大な責任がある。

航空整備士は通常、航空機格納庫内で働く。しかしながら、屋外業務が必要となる場合もある。彼らは様々な規模の組織に勤務し、時には個人顧客のために直接働く場合もある。彼らは、検査、保守、修正、トラブルシューティング、取り外し、取り付け、装備、テストと修理などの数多くの工程を実施する。航空整備士は、ヘリコプター、旅客機、UAV（無人航空機）、またはティルトウィング機などの特定の航空製品に関する業務に特化している場合もある。どこで働く場合であっても、効率的な作業の構成、自己管理、コミュニケーション、対人スキルと問題解決は、全ての航空整備士に必要となる重要な属性である。彼らは安全に作業し、業界の規則や製造業者の指示に厳密に従う能力を有していなければならない。これらの共通する特性は、優秀な航空整備士の指標である。

流動的な労働市場では、航空整備士は、チームまたは個人で業務にあたり、時にはその両方に従事する場合もある。業務の体制に関わらず、訓練と経験を積んだ航空整備士は、高い水準の個人的責任と自主性を負っている。安全作業に細部に入念な注意を払って顧客の安全を守ることから、複雑な修理を行うことまで、全ての工程が重要であり、ミスは生命の危険につながりうる。航空整備士は、飛行前の航空機の安全を確認する最後の砦の一員である。

グローバル産業の一員として、航空整備士は、ドローンや宇宙船の整備など急速に拡大する機会と課題に直面している。有能な航空整備士には、多くの商業的および国際的な機会が用意されている。しかし一方で、様々な規則や文化、技術の進歩を理解しそれらと共働することも必要となる。したがって、航空機整備に関するスキルの多様性は、今後も拡大していくと思われる。

### 1.1.3 チームの選手数

航空機整備は選手1人による職種競技である。

### 1.1.4 選手の年齢制限

選手は、技能競技大会の開催年において25歳以下でなければならない。

## 1.2 本書の位置づけと重要性

本文書は、この職種競技で競うために必要となる基準、また、競技を運営する上での評価指針や方法と手順に関する情報を含む。

各エキスパートと各選手は、この職種定義について理解しておく必要がある。

「職種定義」の異なる言語間の解釈の相違に際しては、英語版が優先される。

## 1.3 関連書類

この職種定義は職種限定の情報のみを含むため、以下のものと共に用いること。

- WSI-倫理行動規程
- WSI-競技規則
- WSI-ワールドスキルズ職業基準の枠組
- WSI-ワールドスキルズ評価戦略
- WSI-本文書に記されているオンラインの情報源
- ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制
- ワールドスキルズ基準評価ガイド（職種限定）

## 2 ワールドスキルズ職業基準（WSOS）

### 2.1 WSOSに関する一般的な説明

WSOSは、技術的および職業的能力における国際的な最良事例の土台となる知識、理解、技能と能力について詳述している。これらは職業的役割に特化していると同時に横断的である。それらは共に、業界や企業においてその関連する職務または職業が何を意味するかについて、全世界で共有される理解を反映したものでなければならない（[www.worldskills.org/WSOS](http://www.worldskills.org/WSOS)）。

職種競技はWSOSの記述に従い、国際的な最良事例を可能な限り反映することを目的としている。したがって、WSOSは職種競技のために必要とされる訓練や準備についての指針でもある。

職種競技において、知識や理解の評価は実技の評価を通して行われる。知識や理解力のテストはやむを得ない理由が無い限り、別途行うことはない。

WSOSは項目付きのセクションで区切られ、参照番号が付いている。

各セクションで合計点における割合（パーセント）が定められ、WSOSに占める相対的重要度が示されている。これはしばしば「重要度」と呼ばれる。パーセント評価をすべて合計すると100になる。重要度は、採点スキーム内の評点の配分を決めるものである。

競技課題を通して、採点スキームはWSOSに記載されている技能と能力のみを評価する。それらは職種競技の制約内で可能な限り包括的にWSOSを反映する。

採点スキームは実際に可能な範囲で、WSOS内の評点の割り当てに従う。WSOSで規定されている重要度を歪めないのであれば、最大5%までの変動は許容される。

## 2.2 ワールドスキルズ職業基準

セクション		相対的重要度 (%)
<b>1</b>	<b>作業の構成と管理</b>	<b>5</b>
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その企業の整備方針マニュアル (MPM)</li> <li>ATAの各章、または同等のもの</li> <li>安全衛生に関する法律、義務と文書</li> <li>承認されたマニュアル、製造業者と政府からのデータ</li> <li>個人用防護具 (PPE) を使用すべき状況 (安全靴、保護メガネや防音保護具、手袋および呼吸用保護具を含む)</li> <li>システムの損傷を防ぐために静電気除去装置を使用すべき状況</li> <li>手動、電動、機械工具/装置の目的、使用、取り扱い、維持管理、保管とそれらの安全上との関係</li> <li>材料の目的、使用、取り扱い、安全な保管</li> <li>ワークフローと時間管理の原則</li> <li>全ての業務の遂行において、調査、計画、正確さ、確認と細心の注意を払うことの重要性</li> <li>国際的な耐空性の基準に従ってタスクの完了を証明することの重要性</li> </ul>	
	<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生の基準、規則、規制に一貫して真摯に従う。</li> <li>安全靴、視覚と聴覚の保護具などの適切な個人用防護具を特定して使用する。</li> <li>すべての工具と機器を安全に選択、使用、洗浄、整備、保管する。</li> <li>全ての材料を安全に選択、使用および保管する。</li> <li>効率を最大化する作業エリアを計画する。</li> <li>作業エリアの清潔と整頓を保つ規律を維持する。</li> <li>正確に測定し定期的に確認する。</li> <li>承認済みのマニュアルとデータの最新改訂版を使用して、国際的な耐空性基準に沿って規定された工程と手順に一貫して真摯に従う。</li> <li>自分の権限の限界を認識する。</li> <li>プレッシャー下でも高い品質基準と作業工程を確立し、一貫して維持する。</li> <li>チーム環境内でワークフローを計画し、タスクの競技が一定時間内で安全かつ成功したものとなるよう最善を尽くす。</li> <li>チーム環境内で一連のタスクを構成して実行する。</li> </ul>	
<b>2</b>	<b>コミュニケーションと対人スキル</b>	<b>5</b>
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顧客の信頼を確立し維持することの重要性</li> <li>関係する同僚の役割と要件</li> <li>生産的な仕事上の関係を構築し維持することの価値</li> <li>業界で認められる態度、適性と能力を有し発展させること (「トリプル A」の成功) の重要性</li> <li>誤解や相反する要求を迅速に解決することの重要性</li> <li>チームワークの原則</li> <li>チームで働くことの広範な重要性</li> <li>チームの環境下での個人の役割と責任</li> <li>効果的なチームワークの対人テクニック</li> <li>チームで協力してタイムリーかつ経済的な方法でタスクを完了することの重要性</li> <li>チームの価値、責務、貢献</li> </ul>	
	<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術的な問題を解決するためなど、調査上の議論を行う。</li> <li>自分のパフォーマンスに関するフィードバックに対して前向きに反省し、建設的に対応する。</li> <li>ロジスティクス・サプライヤー、技術関係当局、製造業者の技術支援などのサポート組織のニーズを認識して対応する。</li> <li>チームで協力して、タイムリーかつ経済的な方法でタスクを完了する。</li> <li>安全性と耐空性を維持する目的などにおいて、チームに積極的に貢献する。</li> </ul>	

セクション	相対的重要度 (%)
<b>3 問題解決、イノベーション、創造性</b>	<b>5</b>
<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業工程内で発生しうる一般的な問題</li> <li>国際的な耐空性基準を確実に達成するための作業方法と行動</li> <li>問題解決のための診断的アプローチ</li> <li>問題解決プロセスにおいて、製造業者の最新版の整備マニュアルと文書に従うことの重要性</li> <li>新素材、手法、技術を含む業界の動向と発展</li> </ul>	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業を定期的に確認し、後工程での問題を最小限に抑える。</li> <li>問題を防止するために不正確な情報に異議を唱える。</li> <li>製造業者の最新版の整備マニュアルと文書を用い、問題を特定して解決するための自己管理プロセスに従う。</li> <li>複雑な問題の解決に粘り強く取り組む。</li> <li>製品と全体的な顧客満足度を向上させるためのアイデアを提供する機会を見分け、それに対応する。</li> <li>アイデアを経営陣に伝える。</li> <li>新しい方法を試み、承認された業務の範囲内で変化を受け入れる。</li> <li>承認された業務の範囲内で新しい技術の可能性を開拓する。</li> <li>整備関連の出版物からの情報を解釈し適用する。</li> <li>国際的な耐空性基準に従い、自分の作業とチーム環境で働く同僚の作業のチェックと検証を奨励する。</li> </ul>	
<b>4 持続可能な実践</b>	<b>5</b>
<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した材料の使用、廃棄物の最小化、ごみの処理と材料のリサイクルに関する持続可能性対策（セクション1より）</li> <li>環境への配慮のため、紙の消費量を削減する。</li> <li>水素エンジン、バッテリー技術、高バイパス比（HBPR）エンジン、持続可能な航空燃料（SAF）の開発など、業界の動向と発展</li> <li>職場における従業員の多様性、差別しないことの重要性</li> </ul>	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての規制要件と関連する環境基準を遵守する。</li> <li>文書やタスクカードを電子化することで、二酸化炭素排出量を削減し、情報の提供と伝達を加速させる。</li> <li>承認された業務の範囲内で、燃料費と二酸化炭素排出量を削減するデジタル技術の可能性を見分ける。</li> <li>計画的に作業し、材料の無駄を減らす。</li> <li>多様性と包括性を促進する職場を大切にする。</li> <li>地上支援用機材を運用して、航空機の補助動力装置の地上での使用量を削減する。</li> </ul>	
<b>5 航空機とシステム検査ラインの整備</b>	<b>16</b>
<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目視検査のテクニック</li> <li>航空整備関連の出版物（すなわち、ATAの各章、整備マニュアル、部品マニュアル、航空機における運用許容基準、会社の出版物、検査スケジュールなど）の目的、構成と内容</li> <li>航空機整備の開始、不具合や処置の記録と航空機整備の証明のための文書（すなわち、飛行記録、テクニカルログ、作業指示書、タスクカードなど）の目的と使用</li> <li>定期検査と非定期検査の文書化と証明に対するスタッフの責任を証明する。</li> </ul>	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目視検査のテクニックを応用する。</li> <li>定期検査と非定期検査の解釈と実施</li> <li>発見された不具合の特定と報告</li> <li>関連する法律と製造業者や会社の要件に従って自分の作業を記録し証明する。</li> <li>問題のあるLRUを特定し、運用可能なユニットと交換する。</li> </ul>	



セクション	相対的重要度 (%)
<b>6 機体エンジンコンポーネントの検査・調整</b>	16
<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 航空整備の出版物、（すなわち、ATAの各章、整備マニュアル、部品マニュアル、航空機における運用許容基準、会社の出版物、検査スケジュールなど）の目的、構成と内容</li> <li>• 航空機整備の開始、不具合や処置の記録と航空機整備の証明のための文書（すなわち、飛行記録、テクニカルログ、作業指示書、タスクカードなど）の目的と使用</li> <li>• 不具合への調整の文書化と証明に対するスタッフの責任の証明</li> <li>• トラブルシューティングのテクニック</li> <li>• システムとコンポーネントの構築と運用</li> <li>• システムとコンポーネントの出版物</li> <li>• トラブルシューティングのための記録と証明プロセス</li> </ul>	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• システムとコンポーネント関連の出版物の情報を解釈して応用する。</li> <li>• トラブルシューティングのテクニックを応用する。</li> <li>• 次のような処置を実施して不具合を調整する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンポーネントの交換</li> <li>○ LRUの交換</li> <li>○ システムまたはコンポーネントの調整</li> <li>○ システムの抽気（ブリーディングまたはフラッシング）</li> <li>○ コンポーネントへの潤滑</li> </ul> </li> <li>• 最新版の整備マニュアルの手順に従い、不具合と調整報告（タスクカードまたは飛行記録の記載など）を解釈する。</li> <li>• 関連する法律と製造業者や会社の要件に従って自分の作業を記録し証明する。</li> </ul>	
<b>7 航空機アビオニクスシステムの検査・調整</b>	16
<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 航空整備関連の出版物（すなわち、ATAの各章、整備マニュアル、部品マニュアル、航空機における運用許容基準、会社の出版物、検査スケジュールなど）の目的、構成と内容</li> <li>• 航空機整備の開始、不具合や処置の記録と航空機整備の証明のための文書（すなわち、飛行記録、テクニカルログ、作業指示書、タスクカードなど）の目的と使用</li> <li>• 航空機の電気システムとアビオニクスシステム</li> <li>• 不具合調整の文書化と証明に対する証明するスタッフの責任           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ トラブルシューティングのテクニック</li> <li>○ システムとコンポーネントの構築と運用</li> <li>○ システムとコンポーネントの出版物</li> </ul> </li> <li>• トラブルシューティングのための記録と証明プロセス</li> </ul>	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電気配線図や関連出版物の情報を解釈して適用する。</li> <li>• ワイヤーの取り付け、配線、ワイヤー束の結びやくくり</li> <li>• トラブルシューティングのテクニックを適用する。</li> <li>• 次のような処置を実施して不具合を調整する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンポーネントの交換</li> <li>○ システムまたはコンポーネントの調整</li> <li>○ コンポーネントへの潤滑</li> <li>○ コンポーネントの修理</li> </ul> </li> <li>• 最新版の整備マニュアルの手順に従い、不具合と調整報告（タスクカードまたは飛行記録の記載など）を解釈する。</li> <li>• 関連する法律と製造業者や会社の要件に従って自分の作業を記録し証明する。</li> <li>• アビオニクス技術者による指示を実行する。</li> </ul>	



セクション	相対的重要度 (%)
<b>8 航空機の金属構造物の製作かつまたは修理</b>	<b>16</b>
<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>航空整備関連の出版物（すなわち、ATAの各章、整備マニュアル、部品マニュアル、航空機における運用許容基準、会社の出版物、検査スケジュール、構造修理マニュアル、AC43-13-1Bなど）の目的、構成と内容</li> <li>航空機整備の開始、不具合や処置の記録および航空機整備を証明するための文書（すなわち、飛行記録、テクニカルログ、作業指示書、タスクカードなど）の目的と使用</li> <li>不具合調整の文書化と証明に対する証明するスタッフの責任</li> <li>航空機の構造原理</li> <li>航空機の金属構造物の修理原則</li> <li>航空機の金属構造物の修理・製作技術</li> <li>記録と証明プロセス</li> </ul>	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>航空機の金属構造物の修理の原理と技術を応用する。</li> <li>AC 43-13-1Bや航空機構造修理マニュアルなどの航空整備関連の出版物の情報を解釈して適用する。</li> <li>最新版の整備マニュアルの手順に従い、不具合と調整報告（タスクカードまたは飛行記録の記載など）を解釈する。</li> <li>関連する法律と製造業者や会社の要件に従って自分の作業を記録し証明する。</li> </ul>	
<b>9 航空機複合材の検査・修理</b>	<b>16</b>
<p>各自は、以下を知り理解する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>航空整備関連の出版物（すなわち、ATAの各章、整備マニュアル、部品マニュアル、航空機における運用許容基準、会社の出版物、検査スケジュール、構造修理マニュアル、AC43-13-1Bなど）の目的、構成と内容</li> <li>航空機整備の開始、不具合や処置の記録と航空機整備の証明のための文書（すなわち、飛行記録、テクニカルログ、作業指示書、タスクカードなど）の目的と使用</li> <li>不具合調整の文書化と認証に対する認証スタッフの責任</li> <li>航空機の構造原理</li> <li>航空機の複合材構造物の修理原則</li> <li>航空機の複合材動力装置の修理技術</li> <li>航空機の複合材構造物の修理・製造技術</li> <li>記録と証明プロセス</li> </ul>	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>航空機複合材構造の修理の原則とテクニックを応用する。</li> <li>AC43-13-1Bや航空機構造修理マニュアルなどの構造修理出版物の情報を解釈し適用する。</li> <li>最新版の整備マニュアルの手順に従い、不具合と調整報告（タスクカードまたは飛行記録の記載など）を解釈する。</li> <li>関連する法律と製造業者や会社の要件に従って自分の作業を記録し証明する。</li> </ul>	
<b>合計</b>	<b>100</b>

## 3 評価戦略と仕様

### 3.1 一般的なガイダンス

評価はワールドスキルの評価戦略を用いて管理される。この戦略では、ワールドスキルの評価と採点において遵守すべき原則や技法を規定している。

エキスパートによる評価の実施は技能五輪国際大会の中核を成している。この理由により、継続的な専門性開発や精査の対象となっている。評価においてより多くの専門性が求められると、採点スキームや競技課題、また競技情報システム（CIS）などの技能五輪国際大会で使用される主要な評価手段において、将来的な使用法と方向付けに影響を与えることになる。

技能五輪国際大会の評価方法は、メジャメント（測定）とジャッジメント（判定）の2つに大きく分けられる。両方の評価方法につき、各評価細目を採点するのにどちらの方法を使用するかについて明確なベンチマークを適用することが、質を保証する上で不可欠となる。

採点スキームはWSOSにおける重要度に従う必要がある。競技課題は職種競技の評価手段であり、したがって、WSOSにも従うものである。CISはタイムリーで正確な採点の記録を可能にする。CISの精査、サポート、フィードバックの可能性は継続的に拡大している。

採点スキームは、概ね競技課題の考案過程でその指標となる。その後、採点スキームと競技課題は両者一体となってWSOSと評価戦略との関係性を最適化することを保証するため、反復作業を通して考案、作成および検証される。採点スキームと競技課題は共にその質とWSOSとの適合性を明らかにするため、エキスパートの同意を得、承認を求めてWSIに提出される。

WSIの承認を得るための提出以前に、採点スキームと競技課題はその質を保証しCISの実効性を確保するため、WSIの職種アドバイザーとの情報交換の対象となる。

## 4 採点スキーム

### 4.1 一般的なガイダンス

ここでは、採点スキームの役割と位置づけ、競技課題を通して実施された選手の作業に対するエキスパートの評価方法、また、採点の手順と必要事項について記述する。

採点スキームは、それが各職種競技を表す基準と評価をつなぐものであるという点において、つまりそれ自体が世界的な職業を表すという点において、技能五輪国際大会における極めて重要なツールである。また採点スキームは、作業に対する各評価細目の評点がWSOS中の重要度に応じて配点されるように考案される。

WSOSにおける重要度を反映することにより、採点スキームは競技課題考案の制限範囲を定めることになる。職種競技の性質やその評価のために必要なニーズによっては、競技課題考案の手引きとして最初に採点スキームをより詳細に作成することが適切な場合がある。あるいは、最初の競技課題は採点スキームの概要に基づいて考案することができる。この時点より後においては、採点スキームと競技課題は同時に作成することが望ましい。

セクション2.1では、実行可能な代替案がない場合、採点スキームと競技課題がどの程度までWSOS内の重要度からかい離してよいかを説明している。

整合性と公平性のため、採点スキームと競技課題は関連する専門知識を持つ1人以上の独立した競技課題考案者によって考案および作成されるようになってきている。こうした例として、採点スキームと競技課題は職種競技または職種競技モジュールの開始直前まで、エキスパートには見られないようにしている。詳細かつ最終的な採点スキームと競技課題がエキスパートによって考案される場合、独立した認証と質の保証のための提出に先立ち、エキスパートのグループ全体でそれらを承認する必要がある。詳細は競技規則を参照のこと。

エキスパートと独立した競技課題考案者は、完了前に十分な余裕を持って、評価、検証および妥当性確認のために採点スキームと競技課題を提出する必要がある。また、質の保証のため、そしてCISの機能を最大限に活用するため、考案と作成のプロセス全体を通じて職種アドバイザー、評価者や検証者と協力して作業することも求められる。

全ての場合において、採点スキームの草案は遅くとも技能競技大会の8週間前までにCISに入力しなければならない。職種アドバイザーはこのプロセスを積極的に支援する。

### 4.2 評価基準（の項目）

採点スキームの主要な項目は評価基準（の項目）である。これらの項目は競技課題よりも前に、または競技課題と連動して得られる。職種競技の中には、評価基準（の項目）がWSOSのセクション項目と類似しているものもあれば、異なっているものもある。通常5～9個の評価基準（の項目）がある。項目が一致する、しないに関わらず、採点スキームは全体としてWSOSにおける重要度を反映しなくてはならない。

評価基準（の項目）は採点スキームを作成する個人（または複数人）により案出され、案出者は競技課題の評価や採点に最適であると考えられる評価基準（の項目）を自由に決定できる。各評価基準（の項目）はAからIまでのアルファベットで示される。評価基準（の項目）、評点の配分と評価方法は、この職種定義内に記載してはならない。これは、評価基準（の項目）、評点配分、そして評

評価方法がすべて、この職種定義の公開後に決定される採点スキームと競技課題の性質に依存するためである。

CISにより作成される採点集計様式（Mark Summary Form）は、評価基準（の項目）と副基準のリストを構成するものである。

各評価基準（の項目）に割り当てられた評点は、CISによって計算される。これらは、その評価基準内の各評価細目に付与された評点の累積合計になる。

### 4.3 副基準

各評価基準（の項目）は1つ以上の副基準に分けられる。各副基準はワールドスキルの採点様式の項目になる。各採点様式（副基準）は、メジャメントまたはジャッジメント、あるいはその両方により評価され採点される評価細目で構成される。

各採点様式（副基準）には、採点日と採点チームの識別情報を記載する。

### 4.4 評価細目

各評価細目は、評価および採点される単一の項目を評点とともに規定し、また採点のためのガイドとしての詳細な説明または指示を細かく定義する。各評価細目は、メジャメントまたはジャッジメントによって評価される。

この採点様式は、配点とともに各評価細目を細かくリスト化している。各評価細目の配点の合計は、WSOSの該当セクションで指定された評点の範囲内に収めなければならない。これは、以下に示すようなCISの配点表に示され、大会開催8週間前の採点スキームの検討時に実施される。（セクション4.1を参照）

	評価基準（の項目）								セクションごとの配点合計	WSOSの配点	相違	
	A	B	C	D	E	F	G	H				
WSOSのセクション	1	5.00							5.00	5.00	0.00	
	2		2.00					7.50		10.00	0.50	
	3								11.00	10.00	1.00	
	4			5.00						5.00	0.00	
	5				10.00	10.00	10.00			30.00	30.00	0.00
	6		8.00	5.00				2.50	9.00	24.50	25.00	0.50
	7			10.00				5.00		15.00	15.00	0.00
合計評価	5.00	10.00	20.00	10.00	10.00	10.00	15.00	20.00	100.00	100.00	2.00	

### 4.5 評価と採点

各副基準には1つの採点チームが存在し、ジャッジメントまたはメジャメント、あるいはその両方で評価と採点を行う。同じ採点チームがすべての選手を評価し、採点しなくてはならない。これが実行不可能な場合（たとえば、すべての選手が同時に行動を取らなければならない、それを監視していなければならない場合）、競技運営委員会管理チームの承認のもとに第2段階の評価と採点が行われる。採点チームは、いかなる状況でも同国/地域人の採点をしないよう組織されなければならない。（セクション4.6を参照）

## 4.6 ジャッジメントによる評価と採点

ジャッジメント（判定）には0から3の数字を用いる。厳密に一貫性を保った尺度を適用するため、以下を用いて判定する。

- 評価細目ごとの詳細なガイダンスのためのベンチマーク（基準）（文言、画像、人工物、あるいは別のガイダンス）。これは、基準評価ガイドに記述されている。
- 0～3の数字の指標
  - 0：業界水準以下の実技
  - 1：業界水準を満足する実技
  - 2：業界水準を満足しており、特定の分野においては業界水準を上回る実技
  - 3：全体的に業界水準を上回り、優秀と判断される実技

通常は3人のエキスパートが同時に各評価細目を判定し、得点を記録する。4人目のエキスパートは採点を調整および監視し、それらの妥当性を確認する。また、彼らは同国/地域選手の採点を防止するため、必要な場合には判定員としての役割を果たす。

## 4.7 メジャメントによる評価と採点

通常、3人のエキスパートが各評価細目の評価を行い、4人目のエキスパートが監督する。状況によっては二重採点のためにチームを2組のペアとして構成する場合がある。特に規定のない場合には、最高点または零点が付与される。点数を細分化する場合は、その採点に関するベンチマークを評価細目ごとに明確に定義すること。計算または送信のエラーを回避するためCISには多数の自動計算オプションが用意されており、その使用が義務付けられている。

## 4.8 メジャメントとジャッジメントの使用

基準の選択と評価方法に関する決定は、職種競技を考案する過程で、採点スキームと競技課題を通して行うこと。

## 4.9 職種の評価戦略と手順

ワールドスキルズは過去の制約の見直しや優良事例の積み重ねなど、継続的な改善に取り組んでいる。下記に示す本職種競技における職種評価戦略と手順はこのことを踏まえ、採点プロセスがどのように管理されているかを説明したものである。

### モジュールA - 航空機およびシステム検査ラインの整備

- 的確な航空機検査手順に従う
- チェックリストに従う
- 不具合報告書を作成する
- 耐空性改善通報とサービス・ブリテン
- チームワーク
- タスクカード
- 全ての書類の使用
- 報告の完了
- 航空機を運航に復帰させる
- エリア清掃
- 完了時刻

## モジュールB - 航空機の金属構造物の製造および/または修理

- 個人用防護具の適切な使用
- すべての寸法を公差内とする
- グレイン方向
- 曲げ半径
- すべてのエッジは滑らかで欠け目がない
- すべての角は公差内に丸められている
- ファスナーのピッチ
- エッジディスタンス
- ファスナーの選択
- カシメ頭
- でき頭
- 表面仕上げ/工具の損傷
- 標準慣行（AC 43-13）に従った修理の実施
- エリア清掃
- 完了時刻

## モジュールC - 航空機複合材の検査修理

- 全ての工程段階が適切に実施されている
- 不具合を正確に記述する
- 文書作成の業務を的確に完了
- 複合材修理マニュアルの適切な使用
- 製造業者の指示と図面に正確に従う
- 目視・打音検査の正しい用法
- 不具合の報告
- エリア清掃
- 完了時刻

## モジュールD - 航空機アビオニクスシステムの検査修正

- 機械コンポーネントシステムのフローチャート、グラフ、整備手順の解釈
- エラーコードの解釈
- フローチャートの使用
- コンポーネントの取り外しと再取り付けの正しい手順
- 正しい「BITE」テスト
- 承認された文書の正しい使用
- 不具合の報告
- 正しい文書報告の完了
- エリア清掃
- 完了時刻

## モジュールE - 機体エンジンコンポーネントの検査・調整

- エラーコードの解釈
- フローチャートの使用
- コンポーネントの取り外しと再取り付けの正しい手順



- 正しい「BITE」テスト
- トラブルシューティングプロセスの正しい活用と結果の解釈
- 承認された文書の正しい使用
- 不具合の報告
- 正しい文書報告の完了
- エリア清掃
- 完了時刻

**このセクションでは、次のような事項に関する事前情報を要約する。**

- 職種管理計画で評価と採点がどのように行われるか。
- 職種管理チームとエキスパート全体での責任の割り当て計画。
- 採点のためのエキスパートの能力を見定めるための計画と、それに応じた彼らの割り当て。
- 職種競技の規模、構成とその他の要因による既知の特別な取り決め。
- 採点および表の設定のために、チーフ・エキスパートは、エキスパートをチームに分ける。ワールドスキルズでの経験、言語と文化が考慮される。
- 段階的な採点ができるよう、各モジュール/タスク/セクションは割り当てられた日に完了する。
- 採点は各セクションが完了した後に入力されるものとし、時間とタスクデータが入力された後にコンピュータが計算を行うプログラムが開発されている。
- 各モジュール用のエキスパートの採点基準と選手の評価シートは、技能競技大会時にエキスパートに与えられる。

## 5 競技課題

### 5.1 一般的な説明

セクション3（評価戦略と仕様）と4（採点スキーム）は、競技課題の作成について規定している。以下の記述は補足である。

競技課題は、それが単体のものでも、複数の独立または関連したモジュールの集合体でも、WSOSの各セクションで規定された応用知識、技能や振舞いに対する評価を可能とすること。

競技課題の目的は、WSOSを通して十分に、均衡が取れ、かつ真正な評価と採点の機会を採点スキームとの連携において与えることである。競技課題と採点スキームおよびWSOSの関係性が、品質における重要な指標となる。実際の作業能力との関係性についても同様である。

競技課題は、セクション2（ワールドスキルズ職業基準）で示された状況以外では、WSOSの範囲外の領域をカバーしたり、WSOS内の採点のバランスに影響を与えることはない。この職種定義では、WSOSに関係する全範囲の評価をサポートするため、競技課題の性質に影響を与えるいかなる問題についても記載する。セクション2.1を参照のこと。

競技課題は、実際の作業における応用を通してのみ知識や理解の評価を可能とする。競技課題は、ワールドスキルズのルールと規則に関する知識を評価するものではない。

現在、ほとんどの競技課題（および採点スキーム）はエキスパートから独立して考案、そして作成されている。これらは職種競技マネージャまたは独立した競技課題考案者によって、通常は大会開催12か月前から考案、作成される。それらは独立した評価、検証と妥当性確認の対象となる。（セクション4.1を参照）

以下に掲げる情報は、この職種定義の完成時点で判明する内容と秘密保持要件の対象となるものである。

詳細については、最新版の競技規則を参照のこと。

### 5.2 競技課題の形式/構造

競技課題は、独立した5つのモジュールが一続きとなった形式になっている。

### 5.3 競技課題の考案要件

競技課題は、その基礎となる職業的役割の目的、仕組み、プロセス、成果を反映すべきである。競技課題は、その役割の小規模版を目指すことが望ましい。職種管理チームは実用性に注力する前に、競技課題の考案がセクション5.1に記されているように、WSOS全体において十分に、均衡が取れ、かつ真正な評価と採点の機会をもたらす方法を示すべきである。

該当する場合は、現行の国際民間航空機関（ICAO）標準に準拠する。

- モジュール形式であること
- 現行の職種定義に従うこと
- ワールドスキルズの要件と番号付けの基準に準拠すること
- 技能競技大会で最終決定される採点スケールを付加すること
- この職種競技に応じた適切な方法で、文書化された機能証明/構造証明/設定時間内の完了などを

付加すること。この検証は、ワールドスキルズインターナショナルの競技経験を持つ業界の内容領域専門家が実施する必要がある。

## 5.4 競技課題の調整と作成

競技課題は、必ずワールドスキルズインターナショナルが提供するテンプレートを用いて提出すること（[www.worldskills.org/expertcentre](http://www.worldskills.org/expertcentre)）。テキスト文書にはWordテンプレートを、図面にはDWGテンプレートを使用すること。

### 5.4.1 競技課題の調整（技能競技大会の準備）

競技課題/モジュールの調整は、職種競技マネージャが行う。

### 5.4.2 競技課題/モジュールの作成者

競技課題/モジュールは、独立した競技課題考案者（ITPD）が職種競技マネージャと協力して作成する。

### 5.4.3 競技課題の作成時期

競技課題/モジュールは以下のタイムラインに従って作成される。

時期	活動
前回の技能競技大会時	エキスパートは、職種競技マネージャを通じて、次の職種競技で考えられる競技課題に関する提案を提出できる。
技能競技大会開催の10か月前	ITPDが特定され、WSIとITPDの間で秘密保持契約が締結される。
技能競技大会開催の3か月前	競技課題がWSI標準を満たしていることを確認するために競技課題/モジュールがテストされ、WSI職種競技の経験豊富な業界の専門家によって職種競技の目的に適合していることが認定される。
技能競技大会開催の1か月前まで	競技課題の文書が、ワールドスキルズインターナショナルの技能競技大会管理マネージャに送られる。
技能競技大会開催の4日前	競技課題/モジュールがエキスパートと選手に提示される。

## 5.5 競技課題の初期評価と検証

競技課題の目的は、特定の職業における卓越した専門家の職業生活を忠実に表現するよう、選手の課題を作成することである。こうすることにより、競技課題は採点スキームを有用のものとし、WSOSを完全に表現するものとなる。この意味で、競技課題はその背景、目的、活動と期待において類する物がない。

競技課題の考案と作成をサポートするために、厳密な質の保証と考案プロセスが整っている（競技規則の10.6-10.7を参照）。ワールドスキルズによって承認されると、独立した競技課題考案者（ITPD）は競技課題の妥当性確認に先立って独立した競技課題考案者のアイデアと計画に対する初期的な検討を行い、続いて競技課題を検証するための1人以上の独立した専門家で、かつ信頼できる個人を特定することが求められる。

スキルアドバイザーは、競技規則のセクション 10.7 に根拠を与えるリスク分析に基づき、初期評価と検証の両方の適時性と徹底性を保証するため、この取り決めに確保および調整する。

## 5.6 競技課題の妥当性確認

職種競技マネージャは、競技課題/モジュールの妥当性確認に関する調整を行い、選手の材料、機材、知識と時間の制約内で完了できることを保証する。

技能競技大会時に、エキスパート全員が以下を確認する。

- 競技課題の考案が正確で完全であること
- 完了不能な設置条件が存在しないこと
- 15～22時間の規定時間内にタスクが完了できること
- 適切な機能が達成可能であること
- 材料/機器リストが正確であること

## 5.7 競技課題の公開

競技課題/モジュールは、技能競技大会以前には公開されない。競技課題/モジュールは、技能競技大会開催4日前にエキスパートと選手に提示される。

## 5.8 競技課題の変更

競技課題は独立した競技課題考案者（ITPD）によって作成されているため、技能競技大会で競技課題/モジュールへの変更が求められることはない。ただし、競技課題文書の技術的エラーとインフラの制約から生じる修正は除く。

## 5.9 材料または製造業者の仕様

選手が競技課題を完了するために必要となる特定の材料および（または）製造者の仕様は、大会開催組織より提供され、エキスパートセンターにあるリンク [www.worldskills.org/infrastructure](http://www.worldskills.org/infrastructure) より入手できる。ただし、特定の材料および/または製造者仕様の詳細は秘密にされている場合があり、技能競技大会前に公開されない場合があることに注意すること。そのような物の中には、故障発見モジュールや公開されていないモジュールの物品が含まれる場合がある。

## 6 職種管理および情報伝達

### 6.1 ディスカッションフォーラム

職種競技に関する議論、情報伝達、協力と意思決定の全ては、技能競技大会に先立ち、ワールドスキルの職種限定のディスカッションフォーラムで実施すること（<http://forums.worldskills.org>）。職種に関連する決定と情報伝達は、ワールドスキルのディスカッションフォーラムで行われた場合のみ有効とする。チーフエキスパート（または職種管理チームが指名したエキスパートリード）が、このディスカッションフォーラムの進行役となる。情報伝達に関するタイムラインと職種競技作成の要件については、競技規則を参照のこと。

### 6.2 選手の情報入手

大会登録された選手のための情報は、すべて選手センター（[www.worldskills.org/competitorcentre](http://www.worldskills.org/competitorcentre)）から入手できる。入手可能な情報は以下の通り：

- 競技規則
- 職種定義
- 採点集計様式（該当する場合）
- 競技課題（該当する場合）
- インフラリスト
- ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制
- その他の技能競技大会関連の情報

### 6.3 競技課題および採点スキーム

公開中の競技課題は、[www.worldskills.org/testprojects](http://www.worldskills.org/testprojects) および選手センター（[www.worldskills.org/competitorcentre](http://www.worldskills.org/competitorcentre)）から入手できる。

### 6.4 大会期間中の各日の職種管理

技能競技大会中の日々の職種競技の管理は、職種管理チームが作成した職種管理計画に定められている。職種管理チームは、SCM（職種競技マネージャ）、チーフエキスパートとエキスパートリードで構成される。職種管理計画は技能競技大会の6ヶ月前から順次作成され、技能競技大会時に完成する。職種管理計画はエキスパートセンター（[www.worldskills.org/expertcentre](http://www.worldskills.org/expertcentre)）で閲覧することができる。

### 6.5 一般的な最良事例の手順

一般的な最良事例の手順では、最良事例の手順と職種限定規則（9）の違いを明確に説明する。一般的な最良事例の手順は（倫理行動規程罰則システムを含む問題および紛争解決手順の一部として罰則が適用されるであろう）競技規則または職種限定規則への違反として、エキスパートや選手が責任を課されてはならないものである。場合により、選手に向けた一般的な最良事例の手順が採点スキームに反映されることもある。

トピック/タスク	最良事例の手順
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>• チーフ・エキスパートによって割り当てられた全ての採点チームは、競技会の期間中はチームとして継続する。同国/地域の選手が採点されているときの採点プロセスについては、競技規則を参照すること。採点チー</li> </ul>

トピック/タスク	最良事例の手順
	<p>ムは、割り当てられた競技課題のみを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全ての採点は、ワールドスキルズから提供されるタブレットによる競技情報システム（CIS）を使用して電子的に完結する。ハードコピーでバックアップを取る。</li> <li>• 必須評価トレーニング（MAT）は、大会開催3日前の午前中にチーフ・エキスパートが実施する。</li> <li>• 全てのエキスパートが採点済みの競技課題採点様式の全体を入手できるのは、大会第4日目の夕方になってからである。</li> <li>• 全ての必要な採点様式は、大会の各開催日の午前中にチーフ・エキスパートが発行する。</li> <li>• 各日（競技第1日目から第4日目）の終わりに、全ての記入済みの採点様式は、職種アシスタントによるデータ入力のためにCISに返送されるものとする。</li> <li>• 各職種競技日の終わりに未提出の採点様式があった場合、チーフ・エキスパートが調査し、必要に応じてさらなる対応のために職種競技マネージャに報告するものとする。</li> </ul>
競技課題の考案	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 選手への指示はできるだけ簡潔な文とし、1つのモジュールについて、承認された指示シートの認められた欄からはみ出さないこと。</li> <li>• 競技課題モジュールの30%変更は、ITPDによって完成される。</li> <li>• ITPDのハードコピーおよび/または電子コピーは、大会開催4日前の午前中に、選手、エキスパート、ならびに通訳者が翻訳および閲覧できるようになる。</li> </ul>
特別な責任のあるエキスパート (ESR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• チーフ・エキスパートは、2サイクル以上職種競技に参加した経験を持つエキスパートを安全衛生エキスパートリードとして割り当てることができる。</li> <li>• チーフ・エキスパートは、2サイクル以上職種競技に参加した経験を持つエキスパートを持続可能性エキスパートリードとして割り当てることができる。</li> <li>• チーフ・エキスパートは、2サイクル以上職種競技に参加した経験を持つエキスパートをメディアエキスパートリードとして割り当てることができる。</li> <li>• これらの役割は、チーフ・エキスパートにより職種競技の1か月前にワールドスキルズディスカッション・フォーラム上で割り当てられる。</li> </ul>
雑則	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 選手のパスポートや身分証明書のチェックは、大会開催2日前にチーフ・エキスパートが実施する。</li> <li>• 採点記入承認様式を含む記入済みの採点様式は、チーフ・エキスパートが管理する。</li> <li>• ワークステーション（各選手用作業場）のローテーションに関する選手への割り当て票は、チーフ・エキスパートが管理する。</li> <li>• 各選手は、習熟日に、更衣室のロッカーの鍵を受け取る。</li> <li>• 競技第1日目、2日目、3日目、および4日目の間に、休憩のために職種競技のワークショップ（各職種競技場）を離れる場合は、全員がサインアウトして再度サインインしなければならない。これには、選手、エキスパート、チーフ・エキスパート、通訳者、ワークショップ・マネージャ、職種アシスタントが含まれる。</li> <li>• 全てのエキスパートは、割り当てられたワークステーション（各選手用作業場）の準備およびセットアップにいつでも応じられるように準備しておかなければならない。</li> <li>• 新たに就任した全てのエキスパートおよび通訳者は、大会開催5日前に実施される必須のWSIオリエンテーションセッションに参加する必要がある。</li> </ul>



## 7 職種限定の安全要件

### 7.1 個人用防護具

開催国/地域の規約の情報として、ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制を参照すること。

タスク	つま先とかかとが閉じた丈夫な靴	側面保護付き安全メガネ	一般的な保護手袋	保護キャップ付き安全靴	防護保護具	音にぴったりの作業服（長ズボン）	バリとバリ作業者（長ズボン）	使い捨て保護オーバーオールおよび防塵マスク
安全エリア用の一般的な PPE（個人用防護具）	√				√ オプション			
航空機およびシステム検査ラインの整備		√	√	√	√ オプション	√	√	
航空機の金属構造物の製造および/または修理		√	√	√	√	√		
航空機複合材の検査・修理		√	√	√	√	√		√
航空機アビオニクスシステムの検査・調整		√	√ オプション	√		√		
機体エンジンコンポーネントの検査・調整		√	√	√		√		
証明と運行への復帰手順				√				

## 8 材料および機材

### 8.1 選手の工具箱

インフラリストには、大会開催組織が提供するすべての機材、材料、設備の詳細が記載されている。

インフラリストは、[www.worldskills.org/infrastructure](http://www.worldskills.org/infrastructure)で入手可能である。

インフラリストには、次回の技能競技大会に向けて職種管理チームが要求した品目と数量が記載されている。大会開催組織は、順次この品目の実際の数量、種類、ブランド、型式を指定したインフラリストを更新する。特定の材料および/または製造元の仕様の詳細は秘密にされている場合があり、技能競技大会の前に公開されない場合があることに注意すること。そのような物の中には、故障発見モジュールや公開されていないモジュールの詳細が含まれる場合がある。

各技能競技大会において、職種管理チームは次回の技能競技大会に備えたインフラリストの検討と更新を行わなければならない。職種競技マネージャは、スペースおよび/または機材の増加がある場合は必ず技能競技大会ディレクターに報告しなければならない。

各技能競技大会において、技術オブザーバーは次回の技能競技大会に向け、その技能競技大会で使用するインフラリストを監査する必要がある。

インフラリストには、選手および/またはエキスパートが持参する必要がある品目や選手の持参が禁止されている品目は含まれない。これらの品目は以下に記載する。

### 8.2 選手の工具箱

選手は、技能競技大会に工具箱を送付することはできない。全ての道具は大会開催組織が提供する。

### 8.3 選手が提供する材料・機材・工具

選手が材料、機器、工具を技能競技大会に持ち込むことはできない。

ただし、選手は、セクション7の職種限定の安全要件に記載されているとおり、自身の個人用防護具を用意しなければならない。

これに加えて、懐中電灯（トーチライト）を持参してもよい。

### 8.4 エクスパートが提供する材料・機材・工具

エキスパートは、セクション7の職種限定の安全要件に明記されているとおり、自身の個人用防護具を用意しなければならない。エキスパートは、通訳者の防護具の用意についても責任を負うこと。

### 8.5 職種エリアで禁止されている材料・機材

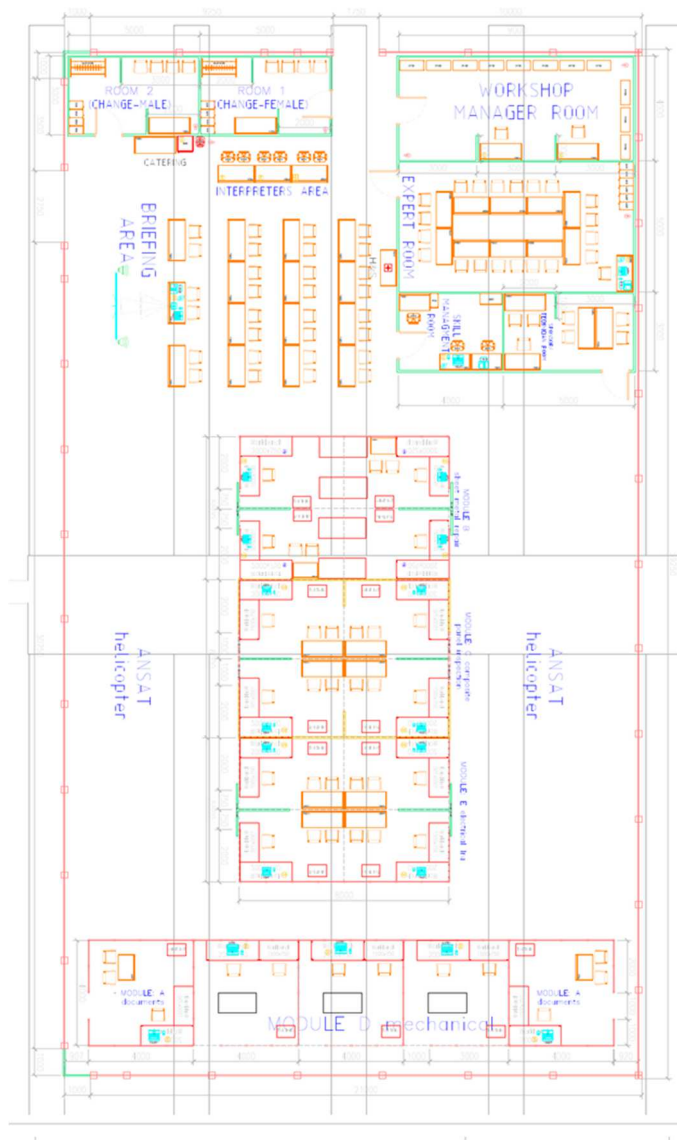
選手とエキスパートは、セクション8.3および8.4に記載されていない材料または機材を持参することを禁止されている。

- 記憶装置
- プログラム電卓
- CD、フロッピー ディスク、フラッシュ メモリ、またはその他の記録装置

## 8.6 ワークショップおよびワークステーションのレイアウト案

過去大会におけるワークショップのレイアウトは、[www.worldskills.org/site/layout](http://www.worldskills.org/site/layout)で入手できる。

ワークショップのレイアウト例



## 9 職種限定規則

### 9.1 一般的な説明

職種限定規則は競技規則と矛盾があってはならず、競技規則より優先されてはならない。職種限定規則は職種競技によって異なるであろう分野において具体的詳細を示し、明確にする。これは、個々のIT機器、データ記憶装置、インターネットアクセス、手順やワークフロー、文書管理や配布を含むが、その限りではない。これらの規則に対する違反は、倫理行動規程罰則システムを含む、問題および紛争解決の手順に従って解決される。

### 9.2 職種限定規則

トピック/タスク	職種限定規則
テクノロジーの使用 - 個人用ノートパソコン、タブレット、携帯電話、電子記憶装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、選手およびエキスパートは、大会開催4日前から競技第4日目まで、個人のノートパソコン、タブレット、携帯電話または電子記憶装置をワークショップに持ち込むことはできない。職種競技マネージャの許可を得て、競技第4日目の職種競技終了時にワークショップで集合写真を撮影する場合には例外とする。</li> <li>• 通訳者は個人のノートパソコンを翻訳目的でのみ使用でき、その使用範囲は通訳者の指定座席エリアに限定される。</li> <li>• これらのものをワークショップに持ち込む場合は、使用しないときは個人用ロッカーに保管しなければならない。これらのものは、各日の終わりにのみ取り出すことができる。</li> <li>• 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、選手およびエキスパートは、選手や同国/地域エキスパートが午後に故障発見モジュールを予定している場合を除き、昼食時に個人の電子機器を使用することができる。</li> <li>• 全ての担当者は、夕方（職種競技日の終わり）に個人用の機器を家に持ち帰ることができるが、ワークショップを離れるときやワークショップに到着したときに職種競技エリアの写真や動画を撮影することはできない。</li> </ul>
テクノロジーの使用 - 個人の写真・動画撮影機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、選手、エキスパートおよび通訳者は、競技4日目の職種競技の終了時に限り、ワークショップで個人の写真・動画撮影機器を使用することができる。</li> <li>• エキスパートは、採点プロセスの必要性に応じて、大会開催組織が提供する専用のカメラとメモリーデバイスを使用することができる。これにはチーフ・エキスパートの承認が必要である。</li> </ul>
型板、補助具など	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 選手は、型板や補助具を技能競技大会に持ち込むことはできない。また、不当な優位性が得られる可能性のある型板や補助具を技能競技大会で製作することもできない。この規則は、競技会開催1日前から第4日目の終わりまで適用される。</li> </ul>
図面、情報の記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大会開催2日前から競技第4日目までの間、選手は、いかなる作成済みの図面または文書化された情報も技能競技大会に持ち込むことはできない。</li> </ul>

## 10 来場者とマスコミに対する職種の広報活動

### 10.1 広報活動の実施方法

来場者とメディアの参加を最大化するために考えられる方法を、以下に掲げる。

- 技能体験
- ディスプレイ画面
- 競技課題の説明
- 選手の活動に対する理解の促進
- 選手のプロフィールの紹介
- 就業機会の情報提供
- 競技状況の日毎の掲示-前回までの技能競技大会のように、全ての競技結果を技能競技大会エリアに掲示することができる。これは技能競技大会の全てのセクションに関する段階的な採点であり、国/地域ごとの最新の総計結果が掲示される。

# 11 持続可能性

## 11.1 持続可能性の実践

本職種競技では以下の持続可能な実践活動を重視する。

- リサイクルの実施
- 「環境に優しい」材料の使用



## 12 産業界との協議に関する情報

### 12.1 一般的な説明

ワールドスキルズは、ワールドスキルズの職業基準が業界や企業における国際的に認められた最良事例のダイナミズムを完全に反映するよう努めている。そのため、ワールドスキルズは2年周期で関連する職業の役割についての説明案とワールドスキルズ職業基準に対するフィードバックが提供可能な、世界中の多くの組織にアプローチを行っている。

並行して、WSIは3件の国際職業分類とデータベースを参照している。

- ISCO-08: (<http://www.ilo.org/public/english/bureau/stat/isco/isco08/>)
- ESCO: (<https://ec.europa.eu/esco/portal/home> )
- O\*NET OnLine ([www.onetonline.org/](http://www.onetonline.org/))

### 12.2 参考情報

この職業は、次のリンクの職業に最も密接に関連している。航空機整備士：  
<http://data.europa.eu/esco/occupation/91373a70-79b6-47a2-aa50-07dfe20dd258>

および、航空機機械工および保守技術者：

<https://www.onetonline.org/link/summary/49-3011.00>

これらのリンクは類似した職業を調べる際にも活用できる。

ILO 7232

以下の表に、技能五輪国際大会（2024年リヨン大会）に向け、関連する職業の役割の説明とワールドスキルズ職業基準について打診され、有益なフィードバックを提供した組織を示す。

組織	担当者
SAAB	Jonathan Björnermark、 メンテナンス・プロダクション・マネージャー
スターズ航空救助サービス	Ryan Gillis、航空機整備エンジニア-ライン

# 13 付録

## 13.1 付録情報

該当なし。